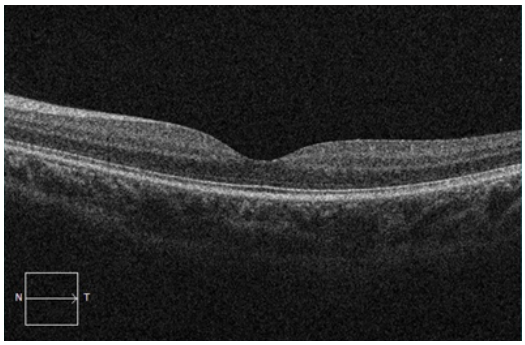
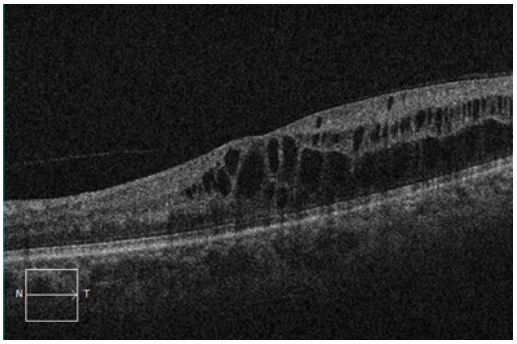
■ 眼科での精密検査

・OCT（Optical Coherence Tomography: 光干渉断層計）による検査

近年、眼科では、網膜の断面を調べる OCT（Optical Coherence Tomography: 光干渉断層計）による検査が普及しており、今までの眼底検査では発見できなかった初期の緑内障を発見することも可能になっています。OCT は、網膜の神経線維や細胞等の厚みを測定し、網膜断面を画像化します。これにより、網膜を三次元的に捉え、むくみの程度、出血の範囲や深さ等を精密に把握することができます。



正　常

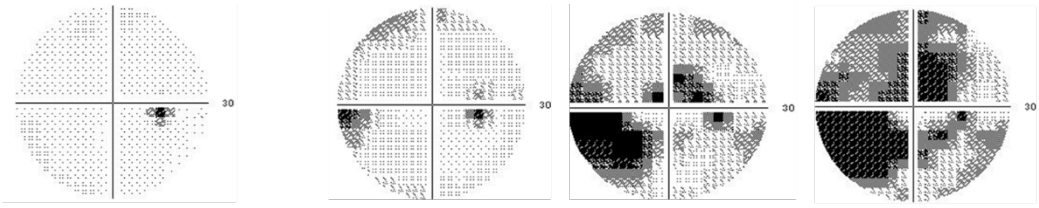


糖尿病網膜症による黄斑浮腫

OCT による網膜断層像

・視野検査（静的視野検査）

視野とは一点を見たときに見える範囲のことをいいます。視野のなかで、中心部が一番感度の高い部分になります。視野異常の有無と程度を調べる検査が視野検査です。検査は片目につき 5～10 分間程度の時間を要します。視野の異常をきたす代表的な眼疾患として、緑内障があります。緑内障の初期段階では、視野異常は、視野の周辺の一部から始まります。さらに、片目のみの視野異常は、他方の目の正常な視野で補われるため、自分では見えにくさに気づかずに視野欠損や視野狭窄が進行することが多くあります。眼科を受診してはじめて視野異常が見つかる場合も少なくなく、定期的に片目ずつ視野検査を行うことが重要です。



正常な視野.　　初　期　　中　期　　末　期

緑内障の視野

視野検査の結果（上段）と視野異常の見えにくさのイメージ（下段）